



あたり前のその先へ！

5月17日(水)より3年生修学旅行を2泊3日で実施しました。今年の修学旅行も予定していた日程で予定していた方面(長野・岐阜方面)に行くことができました。初日の最初の活動は、コロナ禍では、実施ができなかった民泊体験となりました。それぞれのエリアで対面式を行い、子どもたちは、少し緊張した様子で各家庭に向かっていきました。各家庭では農作業を手伝ったり、夕食を一緒に作ったりと普段、大阪ではなかなか体験できないことを大自然の中で体験しました。各民家のお父さん、お母さんとも仲良くなったのか、翌日のお別れ式の時には、「帰りたくない」「ずっとここにいたい」と別れを惜しみ、涙ぐむ生徒もいました。いつか自分たちで旅行ができるようになり、再会できればいいですね。



2日目は、まず田植え体験を行いました。田んぼの泥の中に足を入れることに少し不安があり、最初は悲鳴を上げていましたが、最後は、農家の方の合図に合わせて丁寧に苗を植えていたのはさすが横中生と感心しました。昼からはお待ちかねのラフティング体験でした。30℃を超える暑さの中だったので、川の水が気持ちよかったのではないのでしょうか。また、水量が多く、普段より流れが速くスリルも味わえたことと思います。

2日目の夜は、レクレーション大会です。長い間レク係の人が計画、準備をしてくれました。期待に胸膨らませながらいよいよ開会。最初は有志の出し物でした。ミルクボーイさながらの漫才に始まり、歌にダンスにコントとそれぞれが工夫を凝らし、クオリティーの高い発表の連続でした。たくさんの人の前で発表できる勇気に脱帽です。そして何よりもやっている人たちが楽しみ、見ている人も楽しんでいる。そして称賛の声や歓声、「がんばれ」という励ましの言葉が飛び交っているという最高の全体レクリエーションでした。楽しかったなあ。しかし、テンションがあがり、その後の行動で注意をされたことも忘れないでほしいと思います。

3日目はお楽しみの妻籠宿・馬籠宿での班別行動でした。妻籠宿、馬籠宿がある中山道(なかせんどう)は、江戸時代に整備された五街道の1つで、江戸の日本橋と京都の三条大橋を内陸経由で結ぶ街道です。江戸時代には東海道と並び多くの人が行き交った中山道、なかでも馬籠宿と妻籠宿の間は、往時の面影を色濃く残し、旧中山道信濃路自然遊歩道として整備されています。そういう由緒ある場所を朝からの雨で、思うように散策できませんでしたが、名物の五平餅やアイスクリームなどを食べながらお土産購入を楽しんでいました。

そして、最後の昼食を食べ、いよいよ学校への帰路につきました。

修学旅行に出発するとき、校長先生は3年生に3つの話をしました。1つは無事に行って帰ってくる。2つ目は修学旅行の意味を考え、ルールや約束を守りながら思い切り楽しむ。そして、自分たちで考えた修学旅行のスローガン(目標)である『あたり前のその先へ』を実感できる修学旅行にしてほしいと伝えました。しおりを初めてみたとき『あたり前のその先へ』という言葉が目に飛び込んできました。**自分たちはあたり前のことはもうできている。だからこの修学旅行でその先を目指すんだ**という3年生の心意気が伝わってきて、本当に感動しました。もしかしたらあたり前のことがまだできていない人もいるかもしれません。実際、注意される場面もありました。しかし、一人一人があたり前とはどんなことか考えるいい機会になったのではないのでしょうか。今日の全校集会でお話したように1年生は一泊移住、2年生は校外学習を通じて団体行動や班別行動をやり切ってくれたと思います。だからこそ、3年生と同じように『あたり前のその先』を目指して頑張してほしいと願っています。3年生も修学旅行の時だけの目標に終わらないようにしてくださいね。さあ、**今週のみんなのあたり前は週末に控えている中間テストの勉強です。まずはあたり前のことをあたり前に！**